

# 2020年度事業計画書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

NPO法人近畿アグリハイテク

近畿地域(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福井県)における農林水産・食品バイオテクノロジー等先端技術(以下「アグリハイテク」という)の研究および技術開発の推進、並びにこれによる農林水産・食品産業の発展に寄与するため、下記の事業を実施する。

今年度、農林水産省が公募した「『知』の集積による産学連携支援事業」(以下委託事業)に、(公社)農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)他、全国5つの団体とコンソーシアムを作って応募し、委託をうけることができた。農林水産省では、本事業の目的を“商品化・事業化につながる新たな産学連携研究の仕組み(「知」の集積と活用)を始めとした産学連携による研究開発を推進するため、コーディネーターを全国に配置し、民間企業等が行う商品化・事業化に向けた研究開発や、農林水産・食品分野と様々な分野が連携した研究開発の促進を図ること”、としており、当会の事業趣旨と一致している。そこで、委託事業を活用しながら、今年度も当法人の事業を推進する。

## 1. 農林水産業の生産現場や産業界の技術的課題及び研究開発ニーズの収集および技術シーズや関連情報の収集・提供

- ・企業や公設試、農家や現場指導者への訪問・相談対応を通じて、農林水産業の生産現場における技術的課題や食品産業界の研究開発ニーズを収集する。訪問活動や面談活動の中で大学、国研、公設試、企業等の持つシーズを収集する。
- ・地域の農林水産業に関する報道記事等をファイリングすることにより農業農村の動きや新しいシーズの把握に努める。農林水産技術会議、農業会議、その他の機関等から発出される関連情報についても収集する。
- ・収集した技術シーズのうち活用可能な技術(シーズ)情報については、速やかに特許検索を行い、農林水産業・食品産業の課題解決に有効と思われるものを幅広く選択し、全文の Pdf ファイルを印刷・保存するとともに、全文検索出来るようデータベース化を図る。
- ・過去のコーディネート活動(CD活動)の蓄積は、今後の活動を進める上での貴重な資源であるため、これらの CD 活動の記録についてデータベース化し、検索・利用することにより活動の効率化を図る。
- ・収集した技術シーズや関連情報は、メールニュースの発信、ホームページへの掲載等を通じて幅広く会員等に提供するとともに、マッチングや新たな相談活動等において活用する。

## 2. 産学連携等のためのマッチング

- ・公設試・独法の産学連携部署、農政局はじめ国・府県の行政組織等とのこれまでの連携を基本にして、大学の産学連携支援組織や府県の産学連携支援組織とのネットワークを活用し、異分野との繋がりを強化する。
- ・これまでに訪問、面談等で接触した企業、大学等の情報をファイリングしてあり、引き続き収集・整理を行う。技術開発の相談を受けた際にはこれらの資源を活用し、関係のありそうな企業等を紹介して技術開発に関心を持つ関係者間の連携支援に役立てる。
- ・相談案件に対応する中で可能なテーマについては研究会を組織するように提案を行い、研究者

間や企業等との連携を支援する。

- ・東京で開催される「アグリビジネス創出フェア」にコンソーシアムとして出展し、産学連携支援により開発された成果の商品化や事業化に向けたアンケート調査や広報を行うとともに、異分野・異業種企業との出会いのチャンスの増加を図る。
- ・従来の面談・訪問に加え、近年のインターネット環境の進展を活用する従来にない発信・支援の仕方の方向性として、Web 会議や SNS を活用したコーディネート活動についても実施可能な体制を整備する。
- ・2012年に福井県立大学と締結した「産学連携推進の協力に関する協定」に基づく連携を引き続き維持する。

### 3. 研究開発資金制度の紹介等

- ・コンソーシアム内で共有している競争的資金の公募情報や、農林水産技術会議や諸団体から発出される競争的資金について収集した情報を基に、タイミングを失することなくメールニュース等で随時情報提供する。
- ・近畿農政局と連携しながら、産学連携に関する各種支援制度や支援機関の動向を絶えずフォローし、農商工連携、6次産業化等の各種支援制度の紹介もメールニュースで行う。
- ・近畿農政局や農研機構と連携し競争的資金制度説明会を開催する。その際に個別相談会を設け、提案書作成に向けた支援を行う。
- ・研究計画書や提案書の作成に際しては、それぞれの公募要領に即した提案となるよう内容や表現についてアドバイスし、ブラッシュアップ等の支援を行う。
- ・府県公設試でも競争的資金的な課題選抜を実施する事例があり、これらについても助言することで提案書作成能力の向上を支援する。
- ・共同研究による競争的資金取得支援等の成功事例についてホームページで紹介しており、この活動を継続する。

### 4. 商品化・事業化の支援

- ・専門型コーディネーターとして2名の弁理士と元東京高等裁判所(知的財産高等裁判所)専門委員に委嘱しており、協力を得ながら必要に応じて規制・規格等の調査・情報提供をすすめる。
- ・東京で開催されるアグリビジネス創出フェアに、コンソーシアムとして出展する際に、これまで支援を行ってきた事業化・商品化を進める段階にある成果について、積極的な広報や商品化のためのアンケート等の実施に努める。
- ・競争的資金制度への応募支援によって採択された提案課題については、コーディネーターが研究支援者等として位置づけられており、研究総括者と相談のうえ研究推進会議に出席するなどして、実用化等研究の所期の目的が達成されるよう引き続き支援を行う。
- ・コンソーシアムの「事業化可能性調査」や府県の6次産業化、農商工連携支援制度等を活用し、研究成果の社会実装や事業化に導くためのビジネスモデルの確立を支援する。
- ・農産物の高付加価値化をめざす生産現場を支援するため、GAP 認証をめざす農家の相談にも対応する。

### 5. セミナー・講演会等の開催

会員等が研究開発シーズや事業化・商品化ニーズの収集・提供等を行うセミナー・シンポジウムや農業現場の課題や新たな動きを把握するための講演会を開催する。これらの講演資料のうち公開可能なものについては、演者の承諾を得てホームページで公開しているが、今後も個人情報の保護等

に留意しながら公開可能な資料については積極的に掲載していく。

近畿産大豆生産・需要拡大協議会、西日本農業研究センター等の他団体からの、セミナー・シンポジウムの共催・後援依頼については、積極的に対応する。

#### **6. 技術交流展示会の開催等**

「アグリビジネス創出フェア2020」にコンソーシアムとして他の構成団体とともに積極的に参加する。NPO 法人東海生研と共催している「アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿2020」については、近畿地域からの出展数の増加を図り、地域を越えた産学連携や異分野交流を支援する。